

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
国語	- 言葉に着目して、正確に読んだり、聞いたりする力 - 相手意識や目的意識をもって、話したり書いたりする力 - 根拠を基に自分の考えをもち、適切な表現を選んで書き表す力 - 正しい字形や筆順で漢字を書く力	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 66.0% - 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。 正答率75.4% - 目的に応じて、必要な情報を見つけることができる。 正答率57.9% - 文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができる。 正答率70.2% 以上の結果を踏まえ、以下3つの力を課題と捉えた。 【課題】 - 既習の漢字を文脈に応じて適切に活用する力。 - 目的に応じて必要な情報を読み取り、整理する力。 - 文章の要点を捉え、根拠を明確にして自分の考えをまとめる力。	- 新出漢字の学習や書写学習を中心に、「とめ・はね・はらい」に気を付けて字形を整えて書くことを意識させる。 - 漢字テスト、作文、ノート記述、日記など既習漢字や熟語を活用する機会を意図的に設定し、定着を図る。 - 教科書の範読や、本の読み聞かせなどを聞いたり、読書したりする経験を増やす。 「何を読み取るのか」という視点を明確にして文章や資料を読む活動を継続的に取り入れ、必要な情報を整理・比較する力を育成する。 - 基本の文型や話型を示して、「始め・中・終わり」を意識しながら自分の考えが伝わる文を書いたり、ペアで考えを伝え合ったりする活動を設定する。 - 単元の初めに説明文や物語文を要約する活動を設定し、要点をとらえる力を育成する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
社会	- 資料から地図、統計などの資料を読み取ったことや考えたことをまとめる力 - 社会の学習と日常生活とを結びつけて考える力 - 社会的事象について、時代背景や事象相互の関連を基に多面的・多角的に考察する力 - 学習課題に応じて資料を活用し、必要な情報を整理・分析してまとめる力	【現状】 - 地図の見方や資料の読み取りなどを苦手とする傾向にあり、それらを基に思考する際につまずきが見られる。 - 学習内容を日常生活に結びつけて考えることを苦手である。 - 資料から適切な情報を読み取り、そこから日常生活の出来事と関連付けて自分なりの考えをもつ力が弱い。 - 仲の良い友達と学び合う姿勢があるが、自分の学習を広げるためにより積極的な学び合いの姿勢が必要。 - 自分の考えをまとめ、そこから新たな「問い」を生み出す力、それに取り掛かる意欲が弱い。 以上の現状を踏まえ、次の3つの力を課題と捉えた。	- 地図の読み取りに課題が見られることから、提示する資料の数を精選し、資料のどの部分から何が分かるのかを確認しながら学習を進めることで、必要な情報を正確に読み取る力を育成する。 - 学習内容を日常生活や社会の席事と関連付けて考える力を育成するため、振り返りの時間を活用し、学習内容を身近な生活とのつながりを考えられるよう、視点を示しながら指導する。 - 自分の考えを形成し表現する力を高めるため、一人一人が学習

令和8年度 授業改善推進プラン

		【課題】 - 文章や資料から必要な情報を読み取ること、課題があり、読み取った情報を基に思考したり判断したりする力。 - 学習した内容と日常生活や社会の出来事と関連付けて考える力。 - 自分の考えを深めたり広げたりするために、多様な考えに触れながら主体的に学び合う姿勢。	内容を自分の言葉でまとめる活動を充実させるとともに、その内容を交流する場を設け、協働的な学びへとつなげる。
--	--	---	---

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	- 数学的に考える資質、能力 - 数学的な見方、考え方 - 自力で問題解決できる能力 - 協働して問題解決できる能力	【結果】 本校における全国学力・学習状況調査 - 整数と少数の計算をすることができる。正答率63.2%（東京都67%） - 百分率で表された割合と比較量から、基準量をもとめることができる。正答率56.1%（東京都67%） - 単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表すメモリを捉えることができる。正答率71.9%（東京都76.1%） 以上の結果を踏まえ、次の3つの力を課題と捉えた。 【課題】 - 基礎的・基本的な計算技能を確実に身に付ける力。 - 割合の意味を理解し、基準量・比較量・割合の関係を捉えて問題を解決する力。 - 数の意味や単位分数の考え方を基に、数直線などの図を用いて数量を捉える力。	○基礎的・基本的な計算技能の定着 ・習熟度に応じた反復練習や既習内容の振り返りを継続的にを行い、整数や小数の計算技能の定着を図る。 ○図や式を活用した問題解決学習の充実 ・テープ図や数直線、表や式などを用いて数量の関係を可視化し、割合や単位分数の意味を理解しながら考える学習を充実させる。 ○数学的に表現し、説明する活動の充実 ・自分の考えを図・式・言葉で表現し、友達と説明し合う活動を取り入れることで、多様な考えに触れながら理解を深め、問題解決力を育成する。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	- 既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力 - 実験や観察の結果を根拠として、学習課題に対しての結論を導き出したり、科学的に考察したりする力 - 問題解決の過程を振り返り、観察・実験の方法を評価・改善しながら、よりよい解決方法を考える力	【現状】 - 既習内容や生活経験を基に予想や仮説を立てることを苦手とする児童がいる。 - 観察・実験の結果を基に、考察へ結び付けることを苦手とする児童がいる。 - 考察を基に、問題解決の過程や実験方法を振り返り、見直す活動が十分ではない。 以上の現状を踏まえ、以下3つの力を課題と捉えた。 【課題】 - 既習の内容や生活経験と自然の事物・事象を結び付けて考え、根拠のある予想や仮説を立てる力。 - 実験結果を基に、結論に至った理由や根拠を導き出したり、科学的な見方・考え方をはたらかせたりする力。 - 問題解決の過程を振り返り、観察・実験の方法が適切であったかを検討し、改善点を考える力。	- 単元の導入に単元の目標に基づいた共通体験を教師が意図的に位置付け、問題に気付かせる。 - 事物・現象に影響を与えると考えられる要因を予想し、どの要因が影響を与えるかを調べたり、考えたりする時間を設ける。 - 観察・実験の結果から分かったことだけでなく、「なぜそのような結論になったのか」を結果やデータを根拠として考察する活動を充実させる。 - 既習事項や生活経験と関連付けながら、考える視点を示したり、比較して考える活動を取り入れたりすることで、結果から何がいえるのかを多面的に捉え、深く考える時間を十分に確保する。 - 学習の終末に、観察・実験の方法や結果を振り返り、よりよい方法や改善点について考える活動を取り入れ、主体的に学びを改善する力を育成する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活科	- 身近な自然や季節、生命の成長や変化に気付く力 - 身近な人やものとの関わりを通して、身近な人やものと自分との関わりについて考える力 - 気付いたことや考えたことを、絵や文、言葉などで表現する力	【現状】 - 季節の変化や植物の成長などを観察しても、その違いや変化に十分気付くことが難しい児童がいる。 - 活動を通して気付いたことや思ったことを、自分の言葉で整理して表現することに課題がある児童がいる。 - 人との関わりを振り返り、相手との関わり方や自分自身の成長について考えることが難しい児童がいる。 以上の現状を踏まえ、以下の3つの力を課題と捉えた。 【課題】	- 季節や植物の様子を継続して観察し、以前の様子と比べる活動を取り入れることで、違いや変化に気付けるようにする。 - 観察する際の視点を明確にするとともに、教師の例示や友達の表現を紹介し、気付いたことや思ったことを自分の言葉で表現できるようにする。 - 交流活動の後に振り返る場を設定し、相手との関わり方や活動前後の自分を振り返ることで、自分自身の成長に気付けるようにする。

令和8年度 授業改善推進プラン

	・身近な自然の違いや変化に気付く力。 ・気付いたことや思ったことを自分の言葉で表現する力。 ・人との関わりを振り返り、自分自身の成長に気付く力。	
--	--	--

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	・曲想と音楽を形づくっている要素との関わりに関心し、既習事項を生かしながら、自分の思いや意図に合った表現を工夫する力 ・歌唱や器楽などの基礎的・基本的な技能を身に付け、音楽表現を楽しむ力 ・他者の感じ方や考え方、表現のよさを受け止め、音楽を聴き直したり表現し直したりしながら、自分の考えや表現を深める力	【現状】 授業中の行動観察や演奏の状況、ワークシート等から、次のような状況が見られる。 ・拍やリズムを感じ取ったり、音楽の特徴を捉えて表現したりすることについて、児童による差が見られる。 ・鍵盤ハーモニカをはじめとする楽器の扱い方や、演奏に必要な基礎的・基本的な技能が十分に定着していない児童が見られる。 ・これまでに学習した音楽を形づくっている要素や表現の技能を、新たな題材や表現活動に自ら生かす姿が十分に見られない。 ・友達との交流後も、初めの感じ方や表現から変化が見られず、友達の考えや表現のよさを自分の考えや表現に生かすことが難しい児童が見られる。 以上の現状を踏まえ、以下の力を課題と捉えた。 【課題】 ・拍やリズムを感じ取るとともに、音楽の特徴を捉えて表現する力。 ・楽器を適切に扱い、演奏に必要な基礎的・基本的な技能を身に付ける力。 ・既習事項を想起し、新たな題材や表現活動に活用する力。 ・他者の感じ方や考え方、表現のよさを生かして、自分の考えや表現を見直し、深める力。	・常時活動や音楽遊びに、拍やリズムを感じ取る活動を継続的に取り入れる。また、音楽を形づくっている要素に着目して、歌い方や演奏の仕方を試したり、聴き比べたりする活動を設定する。 ・楽器の扱い方や基礎的・基本的な技能について、短時間の確認や繰り返し練習、個に応じた支援を行い、一人一人が技能の高まりや達成感を味わえるようにする。 ・題材の導入や学習の過程において既習事項を想起する場面を設定し、これまでの学びを新たな表現活動に生かせるよう、課題や学習の見通しを明確にする。 ・個人で考えたり表現したりした後、友達と考えや表現を共有し、再び音楽を聴いたり表現したりする学習過程を設定する。また、ワークシートやICTを活用して交流前後の変化を可視化し、自分の考えや表現の深まりを振り返ることができるようにする。

令和8年度 授業改善推進プラン

図工	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・自分なりのものの見方で試行錯誤しながら思いや考えを表現する力	【現状】 ・活動や他者との関わり合いを通して表現を広げたり深めたりすることが苦手な児童がいる。 以上の現状を踏まえ、以下の力を課題と捉えた。 【課題】 ・活動や他者との関わり合いを通して表現を広げたり深めたりする力。	・児童が自ら試し・気付く余裕のある活動を保証する。 ・表現と鑑賞が往還する授業展開を工夫する。 ・ICTを活用した振り返りと共有の場面を設定する。

家庭	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・日常生活における衣食住についての基礎的な知識及び技能を身に付け、生活の中で活用できるようにする。 ・学習したことを自分の生活と関連付け、生活をよりよくするための方法を考え、実践しようとする力を育てる。	【現状】 ・学習を通して基礎的な知識や技能は身に付いてきているが、それらを日常生活や家庭生活の中で活用するまでには十分に至っていない。 ・裁縫では、課題を難しいと感じた際に、自分で解決方法を考える前に、友達や教師に援助を求める児童が見られる。 以上の現状を踏まえ、以下の力を課題と捉えた。 【課題】 ・身に付けた知識や技能を自分の生活と結び付け、日常生活や家庭生活の中で活用する力。 ・裁縫等の実習において、見通しをもって粘り強く取り組み、必要に応じて助言を得ながら、自ら課題を解決する力。	【指導の工夫】 ・裁縫や調理などの実習では、学習した知識や技能が日常生活や家庭生活のどのような場面で生かせるかを考える活動を取り入れる。また、家庭で実践する機会を設定するなど、学習したことを自分の生活と結び付けて活用できるようにする。 ・裁縫等の実習では、作業工程を示した資料や見本、ICT機器等を活用し、児童が自分で手順や方法を確認しながら取り組めるようにする。また、児童の実態や学習内容に応じて、専科教員と担任による複数体制で指導したり、保護者の協力を得たりしながら、すぐに答えを教えるのではなく、児童自身が考えて解決できるよう支援する。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	・基本の動きを高め、体を巧みに動かす力 ・課題を見いだし、自分に合った練習や作戦を工夫する力 ・互いの良さを認め合い、ルールを守って主体的に協力する力	【現状】 ○基礎体力・特定種目の課題（体力テスト結果より） ・男子：長座体前屈の記録が低い。 ・女子：20M シャトルランの学年平均がTスコア 43 と著しく低い。 ○身体操作性および基礎運動能力の個人差 ・体幹、バランス感覚、リズム良く体を動かす基礎的な身体操作力に個人差が大きい。 ・自分の体の動き（フォームや課題）を客観的に捉え、自発的に改善することが難しい児童が多い。 ○協働的な学びおよび運動への意欲 ・個人プレーを優先しやすく、チームで協力して作戦を立てたり助け合ったりすることができない現状。 以上の現状を踏まえ、以下3つの力を課題と捉えた。 【課題1】 ・俊敏力 ・全般：ボール投げをはじめとする投能力。 【課題2】 ・リズムよく体を動かす基礎的な身体操作。 ・客観的に自身のボディーイメージをとらえ、操作する力。 【課題3】 ・協働的な学びおよび運動への意欲。	【課題1に対する工夫】 ・投擲練習機を休み時間などに活用していく。 ・「カエル跳び」「クマ歩き」など、遊びの中で自然と腕支持や体幹を使う活動を設定する。 【課題2に対する工夫】 ・オノマトペ・音楽の活用：「トントン・パッ」「グー・チョキ・パー」などの掛け声やリズム音楽に合わせて体を動かす遊びを日頃の体育の学習や日常の活動に取り入れる。 ・タブレットを使用し、良い例と自分の動画を並べて見比べ、「どこが違うか」を直感的に気付かせるワークシートを活用したり、教員が問いかけをする。 ・端末の動画をスロー再生させ、手足の位置やタイミングを客観視させる。 ・自分の力に合わせて選べる「高さ・距離・難易度別の場」を複数用意し、「どこで練習するか」を自分で決定させる。 【課題3に対する工夫】 ・チーム作戦や対戦記録をデジタル（またはミニボード等）で共有し、得意な子も苦手な子も「役割」を持って作戦に参加できるようにする。 ・「全員が一度触ってからシュート」「苦手な児童の得点は2倍」など、協力を促すルールの工夫、チーム編成を意図的に行う工夫などを行う。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	・聞く、話す（やり取り、発表）読む、書くに基づいた言語により、学んだ知識をさらに深め、論理的に考えることができる力 ・英語を使う実践力と、国際コミュニケーションの基礎的な力 ・外国の文化と日本の文化を比較し、それぞれの特徴を理解した上で尊重する態度	【現状】 授業中の行動観察やワークシート等から、次のような状況が見られる。 ・英語を話せる児童と話せない児童の差が英語に自信がなく、活動に消極的になってしまう児童が見られる。 ・日本の文化については理解しているが、海外の文化についての理解が十分ではない。 ・授業で学習した話型の意味を理解して適切に使えず、進んでコミュニケーションをとる力が十分ではない児童が見られる。 以上の現状を踏まえ、以下3つの力を課題と捉えた。 【課題】 ・積極的にコミュニケーションとしての英語を話し、相手に伝える力。 ・授業で学習した話型や単語の意味を正確に捉え、コミュニケーションに必要な基礎的・基本的な技能を身に付ける力。 ・異文化に対して興味をもち、自国の文化との違いを理解しようとする力。	・簡単な語句を聞き取れるように、身の回りの物を題材として取り扱う。体験的な活動やゲームなどのアクティビティを取り入れ、すすんで学習に取り組むようにする。 ・活動内容の中で自然に英単語や簡単な文型の発話回数を増やしたり、友達と交流したりする活動を設定して、自信をもたせる。意味が分かるように、表情や身振り、イラストや写真などを手がかりになるように指導する。また、ICTも積極的に活用する。 ・授業の中で、異文化に関する教材や活動を積極的に取り入れ、活動や映像を用いて、外国の文化を知る機会を提供する。またNTとの交流の中で、様々な考え方や生活を知り、異文化に対する価値観を育む。
道徳	・道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深め、道徳的な判断力、実践意欲等の資質・能力を育成する。	【現状】 ・ねらいに迫っていることが分かるような発言や自己の振り返りができていない。 ・多面的、多角的な見方ができる児童が少ない。 以上の現状を踏まえ、以下3つのことを課題と捉えた。 【課題】 ・道徳的価値を深めること。 ・多面的・多角的に考えること。	・道徳的価値についての理解を深めるために、教材理解の時間を設け、ねらいが達成できるように学習課題について考えさせる。 ・多面的・多角的に考えられるように話し合い活動を取り入れていく。 ・自己を見つめる時間を設けることで、自己の生き方について考えを深められるようにする。自分の考えが思い浮かばない児童については、生活場面を思い出させるような声かけをする。

令和8年度 授業改善推進プラン

		・自己の生き方を考えること。	
特別活動	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・学級や集団の一員としての自覚をもち、よりよい学級をつくるために、自分の役割や責任を果たそうとする態度 ・互いの考えや意見を尊重しながら話し合い、合意形成を図り、決めたことを実践する力 ・学級や集団の課題を自分事として捉え、主体的・実践的に活動しようとする態度	【現状】 ・話し方や聞き方を意識して話し合う姿が見られる。一方で、互いの意見を聞き合いながら考えをまとめたり、意見を調整したりする場面では、教師の支援を必要とすることがある。 ・係活動や当番活動では、自分たちのやりたいことや楽しさを優先して活動する姿が見られる。 ・話し合いで決まったことを、その後の活動に生かそうとする姿は見られるが、決めたことを意識し続け、継続して取り組む姿は十分に定着していない。 以上の現状を踏まえ、以下3つの力を課題と捉えた。 【課題】 ・互いの意見を聞き合い、それぞれの考えや思いを尊重しながら意見を調整し、学級として納得できる合意形成につなげる力。 ・係活動や当番活動において、自分たちのやりたいことや楽しさだけでなく、学級全体のことや活動の目的を考え、学級全体のために活動するという意識。 ・話し合いによって決めたことを自分たちのこととして捉え、継続して実践するとともに、活動を振り返り、その結果を次の活動の改善に生かす力。	・学級会を計画的に実施し、議題について自分の考えをもち、根拠を明確にして伝えるとともに、友達の意見を受け止め、互いの考えを生かしながら合意形成を図ることができるようにする。 ・係活動や当番活動では、活動の目的や学級にとっての意義を確認し、自分たちの活動が学級生活の向上にどのようにつながっているかを意識できるようにする。また、活動後に振り返りの時間を設け、成果や課題を次の活動に生かせるようにする。 ・学級の課題や活動の進捗を児童がいつでも確認できるようにし、定期的に自分たちの取組を振り返る場を設けることで、課題を自分事として捉え、決めたことを継続して実践・改善する力を育てる。

令和8年度 授業改善推進プラン

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・自分が興味をもった課題に対して、進んで課題設定を行い、課題解決に向かう態度・意欲 ・自ら課題を見つけ、情報収集をし、集めた情報を整理したり分析したりして、まとめられる資質・能力	【現状】 ・課題解決の見通しをもてない児童が多い。 ・資料を正確に読み取る力が弱く、自分に必要な情報を取捨選択することが難しい。 ・集めた情報について、十分に内容を理解しないまま発表資料にまとめている様子がある。 以上の現状を踏まえ、以下3つの力を課題と捉えた。 【課題】 ・課題を自分事として捉え、課題設定をする力。 ・課題に見合った情報を収集する力。 ・集めた情報を整理・分析する力。	・学習の見通しをもって取り組めるように学習計画を作成する。 ・課題解決に向けて正確な情報収集ができるように、資料の読み取り方について、社会科を中心に学習していく。また、安易にインターネット検索に頼るのではなく、情報の収集元を絞って提示し、選択させる。さらに、動画や本などの資料を活用して、課題について具体的なイメージをもたせる。 ・個人で情報を整理・分析するとともに、友達との協働的な学びを通して、多様な視点から考えられるようにする。発表の際には、児童が自分の言葉で説明できるように、情報収集の段階から意識して調べるよう指導する。